

**あらすじ**

ロドリゴは牢屋に連れて行かれる。そこには、かつて瓜をくれたキリシタンなども、収容されていた。ロドリゴは初めてイノウエ筑後守と対面し、日本にキリスト教は必要ないと伝えられる。キチジローが告悔をするために、ロドリゴを訪ねて来るが、ロドリゴはキチジローを信じることができないため、認めない。次の日、踏み絵が行われ、収容されていた人のうち、キチジローだけが絵を踏む。絵を踏まなかった片目の男が殉教するが、それでも神は沈黙を守っていた。ロドリゴは自分の信じてきたことに、疑いを持ち始める。

**Paper 2**

小説では登場人物間の対立が描かれることがある。このような対立がどのように表現され、どのような効果をもたらしているかを具体例に言及しながら論じなさい。

**導入**

遠藤周作は『沈黙』において、登場人物間の対立を通して主人公に葛藤を与え、主題を描き出している。ロドリゴと井上筑後守の対立の描写を通して日本への布教の困難や矛盾を、ロドリゴとキチジローの対立を通して全ての人を平等に愛する宗教の限界を露にしている。それによって、ロドリゴに自分の信念に疑いを持たせ、葛藤を生み出すことで、「正の非普遍性」や「弱者の受け入れ」といった主題を描いている。

**対立①：ロドリゴと井上筑後守の対立**

## ● 会話

p.170 井上：「教えが今の日本国には無益と思うた」

ロドリゴ：「正というものは、我々の考えでは、普遍なのです」

➡それまでロドリゴ視点で書かれていた物語に、対立する考えを導入している

p.171 井上：「ある土地では稔る樹も、土地を変えれば枯れることがある」

p.172 ロドリゴ：「もし葉が茂らず、花も咲かぬなら、それは肥料を与えない時でしょう」

➡対立。同じ比喻を使っていることは、同レベルの議論であると伝えている

## ● イメジャリー

p.160 「雑木林に取り囲まれた丘の斜面」

➡閉塞感。内外の差を強調している。

u

p.160 「光が入るのは、小さな格子窓と、僅か皿板一枚がやっと通るぐらいの板仕切りにつけた小さな口」（光＝モチーフ）

➡内部が闇、外部が光という対立構造。ロドリゴが闇にいるのは皮肉。

## ● 心内表現

「日本に来てから初めて味わった静謐な毎日だった」

➡対立構造の中においても、「敵」と対面せず、閉鎖された状況にいることを、平和と感じるアイロニー

p.170 「思いがけぬ役人の言葉に、張り詰めていた心が突然崩れる」

➡対立状態で、ロドリゴが精神的に負けの方向に傾いている様子。

ロドリゴと井上筑後守の対立は、二人の会話、

### 対立②：ロドリゴとキチジローの対立

- 会話  
p.179「俺を弱か者に生れさせおきながら、強か者の真似ばせろとデウスさまは仰せ出される」「俺のような弱虫あ、どげんしたら良かたでしょうか」  
➡弱い信仰者をないがしろにするキリスト教の矛盾を暴く言葉。
- モチーフ  
ロドリゴと井上筑後守の関係のように、内部が闇、外部が光という対立構造。しかし今回はロドリゴが外部、キチジローが内部という構造を取っている。キチジローの側からは
- 心内表現  
p.179「一種の快感があった」「基督は祈りは唱えてもユダが血の畠で首を吊った時、ユダのために祈られたらどうか」「義務的に祈りを呟き」  
➡キチジローはユダをシンボライズしていることから、ロドリゴが基督がどのように裏切者のユダと接したのかを疑問視している。ロドリゴは裏切り者のキチジローに対し許す心を持つことができない。

### 主題への関連

どちらの登場人物との対立もロドリゴの信仰に変化を与え、それぞれ主題を明らかにする。ロドリゴと井上筑後守の対立は、キリスト教会における信仰が日本において適応しないことを示唆し、「正」の普遍性を問うている。またロドリゴとキチジローの対立は、全ての人を平等に愛するべきであるという基督の教えの限界を提示している。

p188

「お前が望んでいるのは、本当の密かな殉教ではなく、虚栄のための死なのか」  
➡自分の仕事を疑っている。

p182

「キリストは」「うす汚い人間しか探し求められなかった」  
「司祭は今日の自分を恥じた」  
➡弱者は評価に値しないという価値観が揺らいでいる。

### 結論

このように、ロドリゴとキチジローの対立、ロドリゴと井上の対立は、ロドリゴの信念を揺るがせることによって、主題を明らかにする役割を果たしている。

### 沈黙の意味

片目の男が処刑された際に、ロドリゴは「なぜ、あなたは黙っている」と基督に問いかける。作品においてタイトルが明示的に登場するシーンであり、重要である。ここから、タイトルである『沈黙』は基督の沈黙であるとする解釈が濃厚である。

また、牢屋の中の生活は「静謐」と説明されている。これも「沈黙」を思わせる表現だ。これは、牢屋の外のクリシタンから離れることで、彼らの消息が途絶える「沈黙」、また、ロドリゴの「沈黙」とすることもできる、